

常識にとらわれない子ども中心の保育

くらき永田保育園(横浜市) 開園から15年

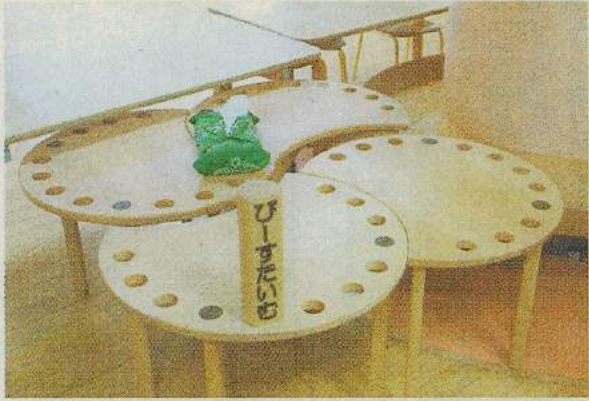
乳児担当制や食育、異年齢保育：ユニークな子ども主体の保育方針で知られる横浜市の(社福)久良岐母子福祉会くらき永田保育園(鈴木八郎園長、園児90人)。開園15年を迎えた今月、保育関係者を招いて、公開保育などをする「保育のカタチ展」を開催。保育界の常識にとらわれず、子どもを中心に据えた園を目指してきた歩みと、現状を紹介する。

年長児に「特別感」与え

動物園とつご、水族 図っている。

館とつごに劇遊びがミックス。子どもたちは保育・2グループが自「私はこちら」と 由遊びで過ごすオーブ「私はこちら」と 由遊びで過ごすオーブ

「今、そこで何が起きます。子どもは目の前「今、そこで何が起きます。子どもは目の前



幼児同士の話し合いのための場「ピーすたいむ」の机

「ピーすたいむ」で いざこざ解決

「す」。こうした環境では、保育者も「静かにしなさい！」など必要以上に声を張り上げる必要はない。話し合いの時間になると、年長5歳児が堂々と考えを話す。その様子を後ろの方から、憧れのような視線で見詰める3歳児。

豊かな遊びを展開している。転、「ケアワーク担当 衣類の着脱、排せつな制」の下、乳児たちは、役割の担当を決め、落ち着いた環境で遊びは年齢ごとの保育

乳児には「ケアワーク担当制」



次に何をすることが分かっているからこそ、0～2歳児も落ち着く

「協力動作といいま 事介助の仕方を「共通 すが、次にやる行為を 赤ちゃんでも予測した。話し合いの中で、協力するように各自が介助する際の順序を詳細に出し合い、

「現状を少し変えて、 試して、これいいね! と実際に良くなる と、段々と「変えるこ とへの抵抗感がなくな

「乳児の食事のあげ方を考える」のは、園全体から見れば小さなことだ。それよりも、

「ピーすたいむ」で話し合っ解決することが「かっこいい」というか、特別なことのような、イメージがあるようなんです」。

15年目を迎え、子ども主体の保育が随所に なじむ同園だが、開園当初からこうした姿であつたわけではない。

園児はも主体的保育が随所に なじむ同園だが、開園当初からこうした姿であつたわけではない。

園児はも主体的保育が随所に なじむ同園だが、開園当初からこうした姿であつたわけではない。

園児はも主体的保育が随所に なじむ同園だが、開園当初からこうした姿であつたわけではない。

